

70年代 戦後21年 戦費の飛躍 思想性を断固堅持

手前西の三つ受取のみならず

々々ナム人民の一世冠以上をもちたる南

日主義との血潮を引くこの三つは、新

な世界革命の牽引者として、戦後と平

の共存する時代は拒否し、断然として

戦日主義の旗を掲げるものとして存在

昨日三月末以降の大攻撃を背景に、10日

及び「九項目和平決定」提案の発表以

来、顕在化を助けた々々ナム人民の公衆

後の勝利への口強いの進歩は、米帝一

クソンの調剤拒否一全面北爆南前にも

かかわらず、南日主義の拒否、抑圧と民族

合衆に近する革命戦争の遂行を遂げて

米帝の北爆停止を百歩取りし（これは、二

クソンの大統領就任式に向けた政界上

作の意味をありつつも、本意は、々々

ナム人民の怒りを知らぬ米救済軍

の南日米帝が完全屈服したことを意味

する。）、世界革命の最前線としての自ら

の位置と任務を更に鮮明にしている。

この々々ナム人民を筆頭に

する民族解放一社会主義革命戦争の連続

的爆発は同時に南日主義本國人民の権力

の中核部に対する階級政治的戦いの真の発展と

要請している。

一亦、田中反動政府の登場以降、一層露

骨に、侵略反革命の直を遂げようとする日帝は

、その先頭に「マニラの盟主」としての登場

を企てつつ、田中防の巨大な軍事力を背

景に、大量の自衛隊を派遣し、マニラ

周辺の主要な分野に於いてこの南日主義的

面編を打ち、この軍事時、インテロガ

ー隊が侵略体制を著々と推し進めている

ことになり、その結果に於いて

この南日主義の田中過程は、権力からの

相対的な優利性を保ち、反南日主義の一

大攻撃を企て、たがう一教育体系に対

する階級的田中攻撃として、攻撃が小

くはなっている。

田中政府は「ルニョアニー」の教育政策一
南日主義的田中の全面展開を拒絶せよ

田中の教育政策は、全共三つの大衆階級
を引くルニョアニー側の総括として提議さ
れている。50-60年代に於ける政府一
文野省の教育政策（何ら系統性を持たず、
田中教育体系の枠内での場当たり的な
政策）の不気味な転換、南日主義の侵
略は、南日主義路線を後方から支える教育体系
を維持発展させる有能かつ多様な階級上層
品の生産一田中権、国民統合を支えるイ
ンテロガニーの生産、科学一技術の生産一
を更に徹底的に確立せよとするものである。
このことは、現段階で、手前三つを以て
大要に於いて、その南日主義の目的を
「南日主義の中心」として田中権力一田中
管理体制の「ルニョアニー」を支える一亦
「南日主義路線」のインテロガニー的な自
断一配分固定化として、南日と成すに於いて

この大規模な価値上げを遂げ、田中
田中政府は「ルニョアニー」の教育政策一
南日主義的田中の全面展開を拒絶せよ
田中の教育政策は、全共三つの大衆階級
を引くルニョアニー側の総括として提議さ
れている。50-60年代に於ける政府一
文野省の教育政策（何ら系統性を持たず、
田中教育体系の枠内での場当たり的な
政策）の不気味な転換、南日主義の侵
略は、南日主義路線を後方から支える教育体系
を維持発展させる有能かつ多様な階級上層
品の生産一田中権、国民統合を支えるイ
ンテロガニーの生産、科学一技術の生産一
を更に徹底的に確立せよとするものである。
このことは、現段階で、手前三つを以て
大要に於いて、その南日主義の目的を
「南日主義の中心」として田中権力一田中
管理体制の「ルニョアニー」を支える一亦
「南日主義路線」のインテロガニー的な自
断一配分固定化として、南日と成すに於いて

同文堂出版 (株) 432-4723

